

資料 4-2

みんなで支える森林づくり地域会議の主な質疑・意見

(H27, 3, 19 現在)

1 開催状況

地域会議名	開催日	出席委員数	備考
佐久	26, 8, 6	5	概要、実績・計画、現調
	27, 2, 24	7	実績見込み、計画、大北
上小	26, 10, 10	5	現調、計画・実績、進捗
	27, 3, 4	6	実績見込み、計画、大北
諏訪	26, 8, 7	7	現調、実績・成果、計画
	27, 3, 18	6	実績見込み、計画、大北
上伊那	26, 7, 4	9	概要、実績・計画
	26, 10, 30	10	現調
	27, 3, 10	10	実績見込み、計画、大北
南信州 (下伊那)	26, 7, 1	6	概要、実績・計画
	26, 12, 2	5	現調
	27, 3, 10	7	実績見込み、計画、大北
木曾	26, 6, 20	7	概要、実績・計画
	27, 3, 3	6	実績見込み、計画、大北
松本	26, 11, 20	6	現調、実績、進捗
	27, 2, 26	5	実績見込み、計画、大北
大北 (北安曇)	26, 6, 23	7	概要、実績・計画
	27, 3, 5	6	実績・計画、大北
長野	26, 11, 12	9	現調、実績、進捗
	27, 3, 10	9	実績見込み、計画、大北
北信	26, 6, 30	8	概要、実績・成果、計画
	27, 2, 26	7	実績見込み、計画、大北

※26年度10地域で22回の地域会議で出された主な意見を取りまとめたものとなっています。

2 森林税活用事業別等の質疑や意見

【森林税全体】

- ① 森林税が無かったことを考えると、事業がじわりじわりと浸透し、そして山への意識が高まったと感じる。
- ② 山や木に対して、世の中全体の目が向いていることを感じている。
- ③ 後継者が育つということは、山間部の振興に繋がるので、森林税でも後継者育成の事業を考えていただきたい。商工業の関係でも後継者問題は待ったなしの状況です。木育とは分けて特に地域の若者を対象とした後継者育成を考えていく必要がある。
- ④ 事業に「山の日」と絡めて税事業を活用していただければと思う。
- ⑤ 山村で生活していくには、林業だけでは難しいので農業、観光業分野など色々な分野の資源を繋ぎ併せたあり方も必要と考える。その中で森林を観光資源ととらえ、その一部に森林税を利用し地域づくりをしていけたら地域振興に繋がるのではないかと。
- ⑥ 次代を担う子供たちの事を考えると、自分達の財産である森林との関わりが少ないので、公民館などをはじめ広く声をかけている。子供達に木の良さとか自然の良さとか森林のありがたさとか実感させてやりたい。
- ⑦ 山の日の制定は良いこと、親も山に行ったことがないので、子供も行かない。たとえばクマ剥ぎのテープ巻きを子供にさせるのも良い。また木に名札を付け心に刻むようなことをしたらどうか。
- ⑧ 森林税には感謝している。間伐、緩衝帯整備進んでいる。また事業範囲を広げてもらい感謝している。山の子供も山を知らない機会を子供に与えないのは地域の問題であり先生の問題ではない。地域で取組む必要がある。
- ⑨ 森林税は、山村は世帯の割には多く活用しているが、町場での活用は少ない。町場の子供たちに森林体験や木材の利用の体験など声を掛けたいのでは。
- ⑩ NPOなど地域で応援できる組織・人材の活用が重要である。
- ⑪ F・POWERの材の供給・販売、バイオマス発電について、安定供給する材の確保が重要。また、効率よい集荷をするために「中間土場」の設置も森林税を活用できないか。
- ⑫ 利用しなくなったら山を守れない。包丁でもナイフでも使わない物は研がないということと同じことで、山にある立木でも生産物でも、そのものを利用する。とにかく利用しないと山は守れない。利用が減少したことによる宿命と言える。木を利用しろと言っても経済的に成り立たない。産業として成り立たなくなって利用しなくなったと思う。これを復活させることは難しいことなので、継続的な森林税だけでなく、それ以外の一般財源等を充てて山を守らないといけない。山

の日が制定されたことで、山がダメになればなるほど山を捨ててはいけないということがわかってくる。少なくとも森林税だけは継続し、山の手入れをしていくしかないのかなと感じている。

- ⑬ 昨年はクマがたいへん多くて、また昨今、野生動物による被害が増えております。その対策としても電気柵だけではなく、ナラ枯れの被害木をただ切るだけではなく、切った後はその周りに何本か植栽できるよう、森林税を活用できないものでしょうか。ナラ枯れの拡大で、今、山にはほとんどドングリが落ちていない、わずか落ちたものはネズミが食べてしまうという現状です。ここで本格的に野生動物の餌になるような木を植える予算を立てていただいて、一本でもドングリのなる木を増やしていくこと、それが人間のためだけではなく、野生動物のためにもいいことであると思います。

【みんなで支える里山整備事業】

- ① 里山整備で竹の駆除が課題であると思っています。森林税事業では、付帯事業でできるが、かなり広範囲に広がっているので、竹林整備が単独でできる事業があれば、里山整備が住民に税事業を実感してもらうことができるのではないかと思います。
- ② 山を持つ方々にとって、今は整備に掛かる経費の捻出が課題となっている。経費は掛かるが、材を利用することにより収入も得られることを説明することで安心して整備に取り組めるのではないかと。
- ③ カラマツについて、活用の途が以前より広がってきているという中で、さらに活用されるよう考える一方で、伐ったあとはどのような森林にしていくかといった更新のことも同時にしっかり検討していかなければならないと思う。そのような更新にも森林税を活用してほしい。
- ④ 森林づくりは一度整備が終わったから終わるというものではなく、地域の森林づくりには、その体制づくりがいかに大変かつ大切であるという気持ちにさせ、循環型の森林づくりを進めるような仕組みが必要。
- ⑤ 最近はゲリラ豪雨などの影響を懸念している。山の整備や将来の準備には道作りが欠かせない。しかし大雨によって崩壊が心配される場所を通過する事例もある。ルートの確認は十分行っているが、万が一被害を受けた時の対処が気がかりであるが、それでも作り続けざるを得ないことに苦悩をしている。森林税でも壊れない道づくりを進めていく必要がある。
- ⑥ 間伐材を使う立場として、ヒノキの場合は6センチ以上のものは製品になるのだが、搬出支援にもう少し支援をしていただければ有効な間伐材利用につながるのではないかと。
- ⑦ 間伐については、将来性を考えた伐採木の選定を心がける必要がある。

- ⑧ 間伐された山の下層が回復して、新しい里山の景色が描かれることを祈る。
- ⑨ 現場をめぐってきて、里山はまだまだ整備しなければいけない場所があると感じた。道端などのPRできる場所も優先的に間伐などを実施できれば、森林整備促進の効果があがるのではないかと思う。
- ⑩ 森林整備のために作業道も必要である。また、昔の山道、林道ではなく地域と地域をつなぐ山道、それを整備することによって山とのふれあいがでてくるのではないかと思う。

【地域で進める里山集約化事業】

- ① 間伐材の有効利用は大切と思うが、やはり所有者との合意形成が難しいケースが多い。集約化の際に、この当たりのことも一緒に承諾を取ることができればいいと思う。
- ② 地域で進める里山集約化、みんなで支える里山整備事業について、高齢化などで、山離れが進んでいますが、地区を上げて積極的に取り組む集約化は素晴らしい。
- ③ F・POWERプロジェクトにより4月から製材工場が稼働となり、材の供給等について、地域で進める里山集約化事業や森林経営計画等により計画的な供給体制づくりがより重要になるのではないか。

【みんなで支える森林づくり推進事業】

- ① 森林税のことについて調べるために長野県公式HPを見たが、県のHP全体に言えることだが、見せ方に工夫がなく、文字の羅列ばかりでたいへんわかりにくい。これでは説得力がない。もっと工夫をしてほしい。
- ② 過去に、森林整備をさせていただいたところに税事業のPR用の横断幕を張ったことがありましたが、その時はきれいに見えてよかった。しかし、その後段々朽ち果てて、やがてどこかへ行ってしまった。更新もお願いしたい。また、いずれ朽ち果ててしまうものなら、また、山のことをPRするのなら、材質に木を使った大きな看板を、森林整備したところで人目につく場所に使うことができないか。
- ③ 森林税については、住民の皆さんも認識されつつあるが、森林税の用途についてまでは理解されていない状況が見られる。現在、FM放送や市村のイベントなどを活用して事業内容についてPRを行っているが、今後も地道なPRが必要である。
- ④ 森林税のPRについても今年は非常にやっていただいたと思います。

【森林づくり推進支援金】

- ① 松くい虫被害対策事業について、市町村によっては森林づくり推進支援金で行っていると説明を受けましたが、もっと拡充するなり、国の事業なども範囲を広げて対応願いたい。
- ② 松くい虫防除対策について、森林税等の事業により森林(森林計画)については防除対策を行っているが、個人の庭木や神社等の木に対する防除も心配である。もっと拡充してほしい。
- ③ 支援金事業は、市町村が事業主体であり内容が見えにくく、以前は既存補助事業への嵩上げがほとんどだったが、最近工夫され特色が出てきているので、県民に対して、実施内容をわかりやすく説明してほしい。
- ④ 支援金は、地域の実情に合わせたという観点から森林面積が大きい市で一つのメニューしか計画されていないのは寂しい。他の町のように、限られた財源の中でも、複数のメニューを計画している良い例もあり、参考にしてもらえればと思う。

【信州フォレストコンダクター育成事業】

- ① 森林税を使う事業で特に人材育成などの実施により、どのような効果があがり、例えば新たな雇用が創出されるようになったか。そのような実績があれば、わかりやすく示して欲しい。
- ② 信州フォレストコンダクターが育成され、経営感覚を備えた人材が一人でも増えるということで、有り余るほどの地域の森林資源を有効に活用するアイデアが生まれ、地域の林業を牽引してくれることを期待する。

【森林(もり)の里親促進事業】

- ① 普段、山に眼を向けることはないが、森林の里親契約から10年、更新を迎えるがまた契約更新をしたい。年2回のボランティアには60~70人の社員が参加するが、森林の大切さなどを知らないまま作業を行っている。少し勉強して理論を学んでから活動をした方が、意識が高くなって良い。
- ② 里親促進事業は大変素晴らしいことだと思います。参加者はお金を出して参加しているものもあります。しかし、地元の人たちが無関心は少しさびしい気もします。そういったときに地元でもボランティアを募ったり、子供たちも一緒に作業が出来たらいいのではと思います。
- ③ 森林の里親に観光の要素を取り入れていただくと思います。色々な取り組みに、県外の方とか多方面に呼びかけて来ていただき地域の人たちと一緒に活動するとか、地域の観光にも結びつけていけたらよいと思います。

【木育推進事業】

- ① 木育推進事業は、前期税活用事業に比べ事業量が増えたように思えるが、もっと増やしてもよいのではないか。
- ② 木育推進事業ですが、事業主体が固定化している傾向があります。もう少し、広く周知していただき、学校、公民館活動など幅広く活用していただくようお願いしたいと思います。
- ③ 長野県は森林県・林業県なのでもっと子供たちが木に触れ合う機会を増やしてほしいと思います。
- ④ 木育ですが、もっと身じかな公民館など地区単位でできればいいと感じました。地域や役場などに働きかけていただきたい。
- ⑤ 里山利用と木育推進について、近頃は学校や父兄が自主的活動で学校林の環境整備をすることが増えてきている。また、その活動を通じて出てくる木を使った活動につながっていると思う。間近に森林がある地域では、そのような意識を持ち、子供らとともに活動されている。他方、町部ではそのようなことが望めない。どちらかという、町部で木に関わることの少ない地域にその意識を持っていただきたいし、町村や学校に取り組んでいただきたい。
- ⑥ 私たちは木を使った施設の価値、整備された森林の価値に気づくが、これは大人であるからではないか。園児などは何気なく過ごしていくのだろう。良さに気づいた大人が「木を使ったこと」を繋げていけば、園児らが大人になって気づいたときに、山造りに関わろうと思えるのではないだろうか。
- ⑦ 林業の後継者の育成でも、木育は非常に大切なことで是非続けていただきたい。ただし、日々山で働いていて感じていることは、1ターンリターンといった人たちでだけでなく、地元の若い人たちに後継者になってもらいたいということで、そのためには、早い段階から山の作業を体験させるなど、後継者が育っていくような環境が必要ではないかと考えます。(小学生だけでなく、高校や大学生までの間も含め10年、20年と長く)
- ⑧ 木育推進事業や里山利用総合支援事業など将来のある子供たちが参加して行う事業は良いことであり、継続、拡充してほしい。
- ⑨ 「カラマツを使った机・椅子」のことが新聞で「スチール机に転換するとの」内容が載っていたが、子供のころは木製の机や椅子を使っていた。木育事業などを活用して「味気ないスチール机」より木製の机や椅子を推進してほしい。
- ⑩ ある地域の子供の卒園時等に机や椅子などの木製品をプレゼントしていくことで、将来大人になって森林の大切さを意識することができるのではないかとと思うので、この予算の中で実施できないか。
- ⑪ この木育推進事業はいろんな学校にやってもらいたいと思っていますが、どうしても実施する地域が偏り、逆にいうと、ある程度ポイントを絞ることができな

いかということですが、前年度に申請した計画を当年度に実施する仕組みになっていますが、今年の担当(先生)がやりたいことがあっても、それができないのが実情です。やりたいことやろうとした時にやれる仕組みは作れないのだろうか。前年度に計画しても、やる時に担当や校長が代わってしまうことが多くあるので、ある程度の事業費については、当年度の申請(計画)に活用できる体制整備をお願いしたい。

- ⑫ 私の地域では、地域の人が学校を動かしてしまう。先生は毎年代わりますが、炭焼き体験学習は、6年生になった年にやります。先生のやる気の有無ではなく、地域の人が学校を焚きつけ、先生と生徒と一緒にやってるのが私たちの地域の小学校です。
- ⑬ 小さな子供たちに対しての木に対する認識を育てていくことが大事ではないかと思う。木が植えられ、伐期を向かえるには1世紀、2世紀と言う時代がかかると思います。その中で、子供たちが森林に興味を持っていきなり、木になじむというか、木と一緒に自分たちも育つ、そんな教育が大事であり、力を入れてほしいと思います。
- ⑭ 各地での木育で子供たちに山に関心を持っていただくことが大切だと思います。わが村では社会教育の関係で自然学校というものがあるのですが、その中ではじめて森林の手入れ、のこぎりで間伐をしてもらって、終わってから山の中で遊ぶという活動について、森林組合の職員が講師となったところですが、非常に喜んでいただいたと、そして大切なことだと感じました。
- ⑮ これからの子供たちにいかに教育していくかだと思います。森林持つ大切さや必要性、木材の持つ特性等教えていかなければいけないのではと思います。そのためにも木育事業は大切な役割を持っていると思います。近くの山の木で、住宅や校舎が出来たら素晴らしいことなのではないでしょうか。里山復活で、子供たちが遊べる場所になってくれたらうれしい事です。

【信州の木活用モデル地域支援事業】

- ① 昨年度の商店街の木質化の事業など身近に木材製品を感じられ、大変有効であると思います。ただ、これが森林税活用事業とは思わなかった。特にベンチの森林税の事業内容を記したプレートは、森林税のPRには有効と思います。
- ② 昨年、大河ドラマが決まり私の住んでいる町も、それに向けて観光など整備・PRをしなくてはならないが、木を使ったこのような施設製作などの取り組みが必要だと思いますので、もっと取り組みを増やしてほしい。
- ③ 信州の木活用モデル地域支援事業は、大変いい事業と思います。我が市は、大河ドラマをはじめとする観光に力を入れているので、この事業を取り入れて観光で訪れた方に県産材をPRできるようにしていただければと思います。

- ④ 塩尻市で実施した「山のお宝ステーション事業」は、地域の皆さん参加した良い事業である。今後の塩尻市は、材を搬出するための「簡易ウインチ」を導入して、効率良く多くの材が搬出できるシステムづくりに向けて取り組む予定と聞いて、今後の広がりも感じました。
- ⑤ 飯山駅を見学させていただきました。最初はなんだろうな、と思ったわけですが、言われてみて木の素晴らしさに気づきました。まるっきり鉄の感触とは違った、木の素晴らしい感触で、ああいうものを我々ももっと考えなくちゃいけない。各市町村さんもあのような公共施設に取り入れていけば、地域全体が素晴らしいものになるなと感じました。
- ⑥ モデル地域支援事業の飯山駅の階段手摺等の事業は、とてもよかったと思います。鉄鋼むき出しの階段が木質化され、優しさが感じられるようになりました。また、市民のメッセージが裏にかかれ参加された人たちにはいい思い出になって駅も愛していくと思います。

【里山利用総合支援事業】

- ① 里山資源を使う意欲のある地域を引っ張るリーダーの要請が必要ではないか。お金の切れ目が縁の切れ目にもなる恐れもあることから、新規の場所も継続の地域もそのような人材の育成が必要ではないか。
- ② 高齢化が進み、里山資源を見つめる機会も少ない。企画ができる若者を養成してほしい。
- ③ 近所で昨年2軒に薪ストーブを入れたが、薪をどう確保するかが課題と言っている。メーカーにより針葉樹や竹を燃やせるストーブも出てきた。地域で使ったり、所有者も利益も出て、伐倒木も処分できる仕組み作りが出来たらいいと思う。
- ④ 山間部では、個人で軽トラ・チェーンソーを持っていて作業する人もいるので、このような取り組みのように、うまくマッチングできたらいいと思う。
- ⑤ 子供の頃に山で育った私は、山へ行くとなんとなく落ち着く。昔は近所の方々が山へ入り手入れをしていたが、今は計画して手入れを行わなければならないことに残念さを感じる。このような、地域での取り組みは続けていくべき。

【その他】

- ① ここ数年、合板への利用が進み、売りさばきに心配はない状況。搬出のコストを下げ、森林所有者へお金を返すことを考えないといけない。
- ② アカマツは松枯れがすごいが、枯れる前に伐って塩尻のFパワーに出していきたい。標高700～800mの被害の危険があるところは早く伐って樹種転換を進めることが良い。

- ③ 伐採については新しい山づくりを担保すること。行政は災害の心配がない皆伐をコントロールしてほしい。
- ④ 全国植樹祭に向けて苗木のスクールステイの参加校を増やすべき。
- ⑤ 二ホンジカの被害対策について、捕獲実績は増えているが森林被害は減っていない。林業現場での防除対策を行い、今ある森林の保全をしっかりとやっていくということを示していく必要がある。
- ⑥ 我が地域のカラマツは60年生が多く、もう真剣に使うことを考えなければならない。カラマツは100年も育てるような樹種ではない。皆伐して更新していくことが重要。新植したところからシカに食害されないように、シカ対策をしっかりとやらなければならない。森林を更新していく段階を迎え、皆伐して植林するという場面を想定し、地域全体でシカの実効性ある個体数管理に取り組んでいかなければならない。
- ⑦ シカは個体数を管理して適正にしておかないと森林の下生えがシカの餌になり、植生が衰退してしまう。「すわかプロジェクト」はとてもいい取り組みだと思う。駆除して埋却処理しているシカも皮などの活用に見通しが立てば、捕獲意欲も高まり、残渣処理の負担も減ってくるので、今後、シカを資源としてとらえていくことができるまでに取り組みが進展することを期待したい
- ⑧ シカとカラマツの話を聞くに及び、どちらが先に解決すべき問題か。どちらにしても今対応しなければ将来がない重要事項。実効性あるシカ対策も科学的に進める必要があるし、カラマツの更新についても最大限の努力で対応しなければならない課題である。どちらにも共通していることは、未活用の領域が大きい対象をどこまで資源として活用できるかだと思う。
- ⑨ 間伐材の搬出先(利用先)として液状化対策への利用を進めるべき。
- ⑩ 我が市は松くい虫被害対策として空中散布を実施している。「自然を無視している」と批判されることもあるが、劇害地の赤茶けた山を見ると環境問題との板ばさみの中で止むを得ない選択とも考えられる。
- ⑪ マツタケの増産を図り地域活性化の材料とすべき。
- ⑫ 山の日の設立は喜ばしいことだが、観光だけでなく、地域で関わる木育などの参加ができる日になって欲しいと期待する。
- ⑬ 山の日が、地域の森林へ行きアクションを起すことを期待する。エコパーク・ジオパークの話題性が先行している。しかしそれだけではなく、小さい活動も含めた山に関する多様な取り組みを地道に展開していきたい。
- ⑭ ペレットの利用について、毎日のように動く施設で継続的に使用され、消費されることが取組の根幹だと感じる。その材料なる残材は、森林から持ち出すには経費が掛かる。それが上手くペイされるような工夫が欲しいし、そうなって欲しいと考える。
- ⑮ 地域の保育園での、子供らが森林や木材と関わり、のびのびと育つ環境は「良

いな」と感じた。公共施設だけではなく、各家庭にペレットの利用が広がればよいと感じた。

- ⑩ 松くい虫被害が拡大しており、この予算で対応できるのか素人がみても対策が追いついていないように思え、大変心配している。
- ⑪ 今年、クマの被害が多く聞かれ、山にある実のなる木も不作だった。山の少し標高のあるところに実のなる木を植えて、クマを食い止めることが可能か研究したらどうか。そういう研究や、地域に実のなる木を植付けてもらい、それを観察してもらうなどに森林税を活用したらどうか。
- ⑫ マイマイガの発生を抑える為に、フェロモンを使ってハエ取り瓶のような仕掛けで補殺して防除できないか。
- ⑬ 獣害防護柵の設置で柵の外と隔てられ、外の森林に対し、住民の関心が薄れる。関心を向ける良い方法はないか。
- ⑭ 子供たちにドングリの芽を出させることをやらせたい。ドングリが少なくなってくると山に棲む鳥獣たちのエサがなくなり、ドングリの更新がされなくなってしまうのではないか。できればある程度の大きさまで育てて山に戻して(植樹)してあげればと思っています。
- ⑮ 木材価格が低迷しているということは、利用促進に尽きると思います。木材が利用されればされるほど単価が上がりますし、森林に携わる大勢の皆さんの恵みになり、利益になってくると思いますので、利用についての予算化を国が中心となり、森林税も活用しながら県も本格的に力を入れてほしい。
- ⑯ 緩衝帯整備とすることで、山の裾野を整備していただいておりますが、果樹・畑地帯、原野(休耕地)が隣接しており、それらの利用価値と云うか、緩衝帯整備の費用対効果がどれくらいなのか総合的に判断し、効果が上がる緩衝帯、電柵で対応できる部分、電柵と僅かな緩衝帯でもクリアできないという問題等があります。木は、昔は20年なり30年になると薪炭林なら伐採して更新し、裾野の山際でも畑として成り立ったわけですが、今はお互いに手を入れないので、一旦荒れてしまうと上から木が被さって果樹地帯も手を離さざるを得ない。生産性の低い耕地になってしまっているので、農政サイドとのタイアップになりますが、林務サイドとしても対応していただければと思います。
- ⑰ 山を守るということは、山にあるもの、木材を利用することである。
- ⑱ 最近、国や県など公の機関からは「山を守らなくてはいけない」という機運が高まっています。何年前かに木材自給率50%を達成するという政府方針があり、その方向に向かっていると思います。またバイオマス発電が全国的に何か所で稼働し、20から30か所もできるそうですが、長野県でもじきに稼働するようです。とにかく利用していくんだという機運が高まってきているように感じます。非常にいいことで、ありがたいことだと思っています。

【大北森林組合補助金不正受給問題等】

- ① この案件で報道され、県民のアンテナも森林税に向いているので、ポジティブに情報を発信した方がよいのではないか。
- ② 他の森林組合であるが、「森林組合としても県民の信頼を図りたい」と思う。
- ③ 私たちの地域の森林組合については大丈夫ですか。
- ④ 森林組合の立場としては、非常に残念に思っています。特に森林税 6 億余円を県民の方々から頂いて、それぞれ森林整備を進めている中で、今まで、森林組合の置かれている立場というのは、非常に厳しい中で、1つ1つ努力して、山づくりの中心となってきたつもりであったけれど、そういったものが、一気に崩れてしまったことは非常に残念に思うし、改めて森林組合の立場として申し訳なく思っていると同時に、本当に残念であります。これを契機に、他にこういった不祥事はないものと思っておりますし、今までにも増して、山づくりにしっかりと森林組合が主体となって取組みたい。
- ⑤ 造林事業とかは、完了率がかなり低いがどういうことなのか。新聞等では、雪が多くて出来ないとあったのですが、作業員が少ないということもあるとは思いますが、もともと無理であった計画をやってしまったのということなのか。
- ⑥ 大北森林組合の件は、県下18組合と1連合会の関係者の信頼を失ってしまった。当組合は過去 2 回の合併を経て、組合運営に取り組んできたところであるが、職員一同、信頼を取り戻すように努めていきたいと考えている。
- ⑦ 不適正な事務処理もあったが、今後、県職員は襟を正してやってくれると思っている。
- ⑧ ニュースを聞いてショックを受けた。補助金はそんなに簡単に使えるものなのかという、市民の声を聴いた。お金を受け取るのであればきちんとした仕事をするのは原点である。公金を使うという立場では県民を裏切らないのが一番大事で当たり前である。自分たちも数千円の補助金をもらうのにも、苦勞して写真をきちんと添付しているのに、一体どういうことなのか。億という金額は庶民には円の無い額であり、しっかり調査をしてほしい。
- ⑨ 多額の補助金の返還が生じるが、組合からの返還の見込みはあるのか、また大北森林組合の今後はどうなるのか。
- ⑩ 本来、補助金を受けて実施されるはずだった森林整備や作業道で完了してない箇所があるが、必要なものは実施してほしい。
- ⑪ 自分たちは、森林組合と同様に補助金をもらいながら山仕事をしており、他人事と言える立場ではない。しかし、事業が全く終わってないというのは考えられないこと。積雪等で一部雪を掘り返して検査をしても全体を確認することはできず、次の申請に送るのが筋だが、予算消化の問題がありそういう対応もできない。予算ありきという現状をどうしていくのか考えていかなければいけない。

- ⑫ 今回のように問題が明らかにならなければ、大北地域での 27 年度予算も過去と同じように予算化されてはいたはず。未実施の箇所の整備をどうするのか大きな課題であるが、終わらなくて困ったという、地域住民の声が聞こえてこない。地域の中での森林整備に対する評価がどうなのか反省するべきであり、やってもやらなくても変わらないと住民に思われている。本当であればすぐに分かり苦情が出るはず。本当に必要とされている事業だったか検証する必要がある。
- ⑬ 緩衝帯整備は市民の目に見えているが、里に出没する鳥獣の増減について、因果関係等市民に伝えて欲しい。
- ⑭ この機会を前向きにとらえ、森林整備により森林が豊かになり、水資源も保全できているなどの効果を発信できればいいと思う。
- ⑮ 森林整備を止めろという声はないが、それに甘えてはいけない。森林整備を行う「森林組合」という組織は絶対に必要な組織であると思われるので、しっかり信用回復をするためにも、しっかり説明してもらいたい。
- ⑯ 今回の事案により地域の林業の停滞を招かないようにしなければいけない。
- ⑰ 再発防止策を講ずるのは、納税者の信頼を回復すること。
- ⑱ 県民がこの問題をどうとらえているのかを注視する必要がある。
- ⑲ あまりにも補助金に依存し過ぎている。補助金が無ければ林業が成り立たないのは、木が市場で必要とされていないから。公益的な機能を考慮して補助金が出ているのであるが、事業者としては補助金に依存しているので、まずどんな補助金が使えるのかから始めてしまっている。この山を整備すればどう地域の中で役に立つのかから考えなければいけない。補助金のための山づくりではない、豊かな森林づくりのための補助金である。
- ⑳ 大北森林組合の件は、私たちの地域では考えられない事件であり、関係報道等で不思議に思うのは森林所有者の存在が表面に出てこないこと。大北地域では森林組合と森林所有者の間に特別の関係があるのか。
- ㉑ 地域で林野関係の役員をやっているが、役員の間では、林野関係者はもちろん、住民、行政、林業事業者など関係するいろいろな人たちが山の状況に目を配っていることから、大北地区で起きたようなことは当地域では起き得ないのではないかという感想を持っている。
- ㉒ この事件が森林組合全体に及ぼす影響が大きい。ある市では、森林組合との契約が行われる全ての場面に際して、市が立ち会うこととしている。県はしっかりと原因究明してほしい